

アスパラガス褐斑病の発生について

1. 病害虫名：アスパラガス褐斑病 (*Cercospora asparagi* Saccardo)

2. 発生作物：アスパラガス

3. 発生の経過

令和元年8月に県中央部でハウス半促成栽培のアスパラガス（品種：メーデル、ウェルカム）において、株の上位葉が黄化し、黄化部には小黒点を伴う赤褐色の病斑が確認された（図-1、2）。

秋田県農業試験場での検鏡の結果、分生子と分生子柄は「アスパラガス褐斑病」の既知の形態と一致した。国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センターに鑑定を依頼したところ、*Cercospora asparagi* Saccardoによるアスパラガス褐斑病と同定された。

本病は国内では九州から北海道まで広く発生しているが、本県では初確認となる。

4. 病徴または形態等の特徴

(1) 病斑は周辺が赤褐色～茶褐色の輪縁、内部が褐色～赤褐色を呈する。斑点病の症状に酷似するが、病斑上に小黒点を伴うことから区別される（図-2）。

(2) 光学顕微鏡下では長円筒形の無色～淡緑色の分生子と無色～淡褐色の分生子柄が確認できる（図-3、4）。

5. 宿主範囲

アスパラガス

6. 防除対策

(1) 高温・多湿状態にならないよう高温時の施設内の換気を徹底する。

(2) 摘心や整枝を行い、茎葉内の通気性を確保する。

(3) 本病は感染から発病までの期間が長いため、登録農薬を散布し、予防に努める（表-1）。

7. 資料



図－1 上位葉の黄化症状



図－2 茎葉の斑点症状と小黑点



図－3 アスパラガス褐斑病の分生子
(スケールバー：20 μm)



図－4 アスパラガス褐斑病の分生子柄
(スケールバー：50 μm)

表－1 アスパラガス褐斑病に登録のある防除薬剤

系統	農薬名	希釈倍数 [散布液量]	使用時期	使用回数	各成分の総使用回数
A	コサイド3000	2,000倍 [100~300 L/10a]	—	—	—
O	ベルコート水和剤	1,000倍 [100~500 L/10a]	収穫7日前まで	5回以内	5回以内
A・E	シトラノフロアブル	1,000~1,200倍 [100~400 L/10a]	収穫開始 3日前まで	4回以内	有機銅5回以内 TPN4回以内
E	ダコニール1000	1,000倍 [100~400 L/10a]	収穫前日まで	4回以内	4回以内
J	アフェットフロアブル	2,000倍 [100~300 L/10a]	収穫前日まで	4回以内	4回以内
S	アミスター20フロアブル	2,000倍 [100~300 L/10a]	収穫前日まで	4回以内	4回以内

A：銅剤 E：有機塩素剤 J：SDHI剤 O：グアニジン系剤 S：QoI剤（ストロビルリン系剤）

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>